

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

#### 学校経営中期取組目標

- 一人ひとりの子どもを大切にしながら、明るく活気ある学校づくりを目指します。
- ・ 「授業が楽しい」「自分の考えを伝えたい」「友達のことを聞きたい」と実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力向上を図ります。
- ・ 一人ひとりにとって、安心して、自信をもって、生き生きと生活できる場となるようにします。
- ・ 健康な心身をつくるための生活習慣を形成していきます。
- ・ 小規模のよさを生かし、全校児童にきめ細やかな対応ができる学校にします。
- ・ 小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携を図り、信頼される学校づくりを進めます。

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

| 重点取組分野          |    | 取組目標   | 具体的取組   |
|-----------------|----|--|---|
| 確かな学力<br>(学習指導) |    | 基礎基本の定着を図り、言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実させるとともに、自己肯定感をもつことができるようにする。 | ①課題を自分事として捉え、意欲的に学習に取り組めるような授業づくりをする。<br>②単元毎の学習計画を立てたり、1時間の授業の流れを提示したりして、見通しをもたせ、ゴールの明確な授業を行い、「分かる・できる授業」につなげる。<br>③多様な考えを共有し、認め合い、共に学ぶ楽しさを味わわせ、言語活動を大切にしながら実践をする。 |
|                 | 担当 |  |   |

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

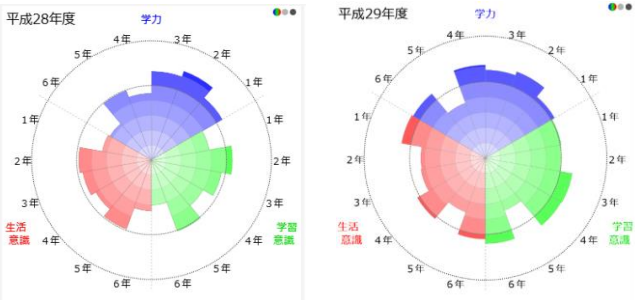
学年によるばらつきはあるものの、全体として、生活・学習意識の向上に伴い、学力も横浜市の平均を上回る傾向にある。生活意識でも「一生懸命取り組んでいることがある」と答える児童が全体の9割を超えた。また「自分にはよいところがあると思う」と答える児童も増加し、29年度は市平均を上回った。反面、学年が上がるにつれ、勉強の大切さは分かっているが苦手意識をもつ児童が増え、学力差が出ている。以上より、友達と関わりながら、自分の考えを表現・交流し、多様な考えを認め合う雰囲気大切にしながら授業づくりを継続することが、全学年を通して求められていると考える。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に市平均に近づき、昨年度より平均も上がっている。言語も含めた知識の定着と活用が必要である。
- 算数科：全体的に市平均を上回っているが、図形領域の理解を図る必要がある。
- 社会科：昨年度より上昇し、市平均に近づいた。引き続き、資料を読み取り、思考・判断・表現する力が必要である。
- 理科：昨年度より上昇し、市平均に近づいた。引き続き、実験結果から思考・判断し、表現する力が必要である。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成27年度から29年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として学力は上昇傾向にあり、生活意識調査の「自分にはよいところがあると思う」という質問についても、年々上昇し、市平均レベルに近づいている。経年変化の状況から、基礎・基本の定着を図り、体験的・継続的活動を行いながら、自分の考えを表現・交流する中で、自信をもって自分の考えを表現できる雰囲気づくり授業づくりをすることが必要であることが明らかになっている。表現・交流する際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもてるように指導・支援を工夫することが不可欠である。



### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりする。そして、人の話を最後まで聞く。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えたことを報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にします。
- 大事なことを落とさないようにしながら聞くことや、互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことを指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

#### 3 学年

- 「同じ」「違う」「つけたし」「もっとくわしく」など、友達の発言をよく聞き、意見を加えたり反対意見を述べたりし、一人ひとりが理由をもって発言する機会を積極的に設ける。
- 総合的な学習の時間を要として、目的意識をもった各教科の単元づくりを工夫する。
- 国語辞典を積極的に活用し、語彙を増やしていく。

#### 4 学年

- 教科等で説明する文章や記録・報告する文章を書くなどの表現活動とともに、話し合いをし、共に学ぶ学習を大切にします。
- 賛成・反対の意見を出したり、質問したりしながら、相手の考えを受け止めて、自分の考えを伝えるような話し合いの指導をする。
- 経験や既習事項と関連付けて、思考する学習を計画的に位置付ける。

#### 5 学年

- 教科等で説明する文章や意見を述べる文章を書いたり、話し合いをしたりする場面を位置付け、表現活動を大切にします。
- 相手の具体的な話を一般化したり、自分の経験を加えて拡張したりしながら話し合うよう指導する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

#### 6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な知識を日常生活の中でも活用できるよう、身近な事象を取り上げ、子ども達が互いに話し合う場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、自分とは違う意見について質問したりして話し合うように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、絵カード、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をする、学習・生活の見通しをもたせるなど、言語環境の整備を行う。